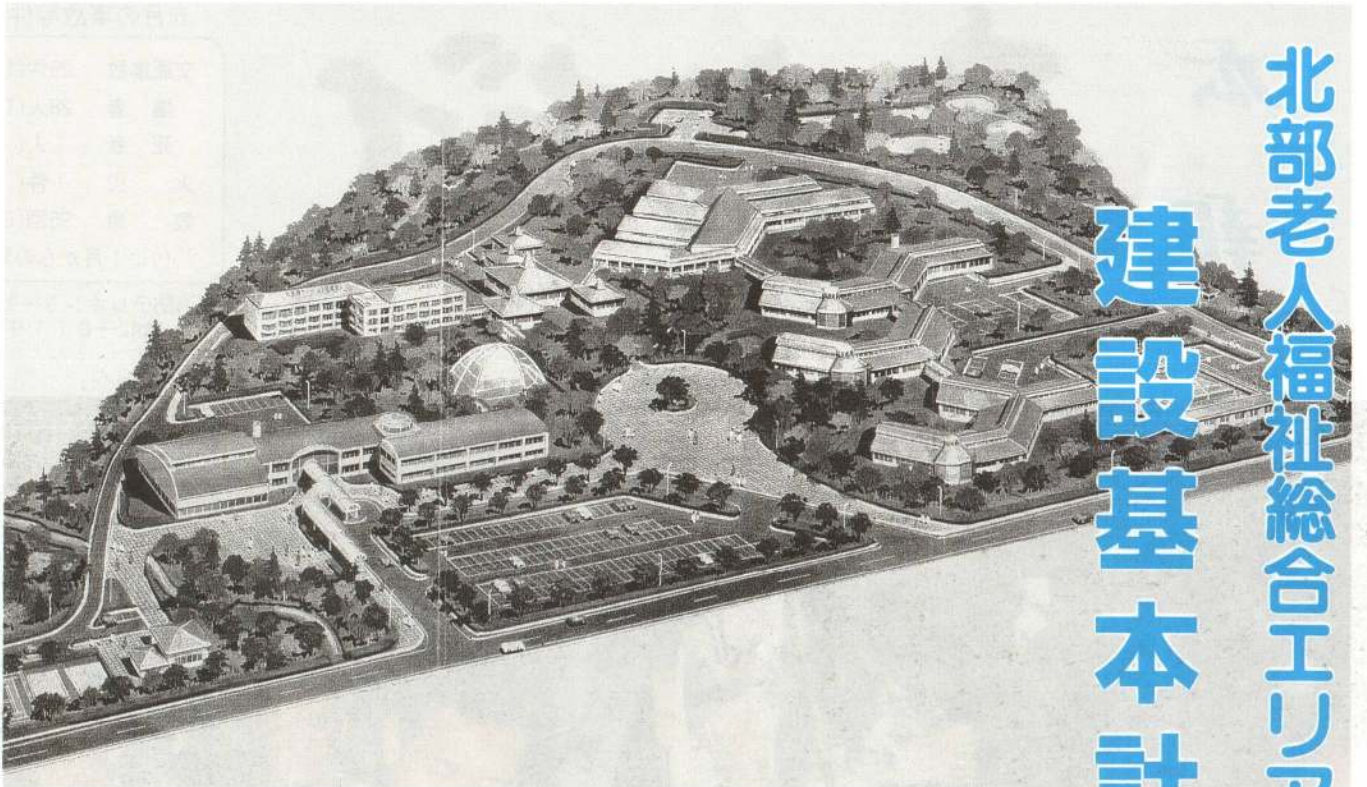


北部老人福祉総合エリア(仮称)

建設基本計画まとまる



秋田県北部老人福祉総合エリア(仮称)を、県との共同事業により十二所地区に整備することが決定し、その具体的な内容を示す基本計画がまとまりました。

この老人福祉総合エリアは、高齢者福祉の基本である保健、医療、福祉の連携により各種サービスを提供できるよう、近代的な設備を整えた施設を中心に、子どもの広場、ふれあいの森、キャンプ場などの周辺整備のほか、福祉に携わる人材の確保と養成を目指すなど、子どもからお年寄りまで利用できるものとなります。

北部老人福祉総合エリア(仮称)の必要性

秋田県の高齢化率(総人口に占める六十五歳以上人口の比率)は、昭和六十三年に十四%を超え、その後は毎年約〇・八ポイント増加し、平成六年には十八・七%となつていきます。全国の高齢化率が十四・一%ですので、本県は全国より六年ぐらいい早いテンポで進んでいることとなります。

県では、県南に南部老人福祉総合エリアの整備を終え、また、秋田市と一体となって中央地区老人福祉総合エリア(仮称)の整備を進めています。

県民が等しく保健・医療・福祉

北部老人福祉総合エリア(仮称)の事業が県と市の共同事業としてスタートしました。

子どもからお年寄りまで
利用できます

この事業は七年度からスタートし、七年度に用地買収、八年度に建設用地の造成、そして九年度からいよいよ各施設の建設に着手、十一年度の一部供用開始し、全施設の完成は十五年度となる見込みです。

完成後は、子どもからお年寄りまで、健康・福祉・ふれあいの拠点として多くの市民が利用できるようになります。

各施設の概要は次のとおりとなっております。

【県で建設する施設】

○コミュニティセンター

●地域及び世代間の交流や社会参加促進のためのイベント等を開催する。

●ボランティア活動支援の拠点とする。

●一般住民を対象とした講習、保健・福祉関係者向けの研修や実習を関係機関と連携しながら実施する。

●総合相談センター(中央地区エリア)のサブセンターとしての役割を受け持つ。

が一体となった各種サービスを受けられることができるようにするためには、地域性を考慮した適切なサービス圏域を設定し、その圏域ごとにサービス提供に必要な施設及び機能を整えたエリアを整備しなければなりません。

県北部(大館市、鹿角市、能代市、鹿角郡、北秋田郡、山本郡)を見ると、六十五歳以上人口は六万人を超え、高齢化は県平均を上回るテンポで進んでいるほか、寝たきりや痴ほう性等の要援護老人の割合も高い水準にあります。この様な多くの高齢者の保健・医療・福祉にかかわる多様なニーズにこたえるため県南部、中央地区に加え県北部への総合エリア整備を進める必要があるということです。